

4年ぶりの訪問

# バンコクと八千代を結ぶ こども親善大使



▲5月21日農業交流センターで開催されたダイラックアン主催のウェルカムパーティー

5月17日から24日まで、バンコクこども親善大使12人を含む訪問団一行が、4年ぶりに本市を訪れました。この国際文化交流事業は「八千代こども国際平和文化基金事業」の一環として、平成元年に始まりました。

これまでに、バンコク都から302人、本市から318人のこども親善大使がお互いの国を訪問して、友情の架け橋をつないでいます。

## 待ちわびた訪問 緊張も日ごとに笑顔へ

平成元年から続いているタイ王国バンコク都との交流は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度以降見送られてきました。訪問ができない間も、市内で開催された、こども親善大使国際平和展の様子を録画したDVDをバンコク都へ贈呈するなど、絶やすことなく交流を続けてきました。

今年は訪問を再開し、バンコク都からこども親善大使と関係者を合わせた19人が本市を訪れました。最初は緊張で硬かった表情も、たくさんの人達との交流や日本の文化に触れ、楽しそうな笑顔に変わっていきました。

## 八千代台小学校の学校交流会では 民俗衣装で踊りを披露

八千代台小学校で行われた学校交流会では、学校側から迫力あるソーラン節を披露してもらいました。

また、習字体験では、「友」「幸」などの漢字を、お手本を見ながら真剣な表情で書き上げ、日本の文化を体験しました。タイの子ども達が書き上げた字を見た生徒達は、「自分より上手!」と感心の声を上げていました。

バンコクこども親善大使は、美しいタイの民族衣装で伝統的な踊りを披露しました。



▲タイでは、稲刈りの休憩時間に村人みんなで踊ります

帰るころにはすっかり打ち解け、見送りに集まった沢山の生徒たちと、ハイタッチをしたり、写真を撮るなどしていました。バスが出発しても、互いにいつまでも手を振り続けていました。

滞在中はこのほかにも、茶道連盟の皆さんの協力で茶道の作法を学んだり、春バラが満開のやちよ京成バラ園を見学しました。

## ダイラックアンとテップウタイ 交流は世代を超えた広がりへ

平成元年度の事業開始に合わせて、本市からも八千代こども親善大使をバンコク都に派遣しています。異文化を体験し、ホストファミリーなど多くの人々の優しさに触れることは、一生忘れることのできない大切な経験となります。帰国後も、「いつまでも交流を続けたい」「バンコクの人たちに恩返しをしたい」という想いは変わることなく、平成16年4月、有志の子どもたちが、OGO会「ダイラックアン」を立ち上げました。

「ダイラックアン」は、タイで旅の安全や幸せを祈って、手首に巻く白い糸のことです。自分たちが訪問したときに、心を込めて巻いてもらった感動が心に残っていることから、この名前が付けられました。バンコクこども親善大使も、“東の国よ永遠に”という意味の「テップウタイ」を結成し、今でも途絶えることなく交流が続いています。

5月の受け入れでは、ダイラックアン主催のウェルカムパーティーが、農業交流センターで行われました。少しでも緊張がほぐれるようにと、糸電話やけん玉、だるま落としなどの楽しいプログラムが用意され、体験した子どもたちは楽しそうに歓声を上げていました。

また、タイでも親しまれているハンカチ落としで、ホストファミリーも一緒に遊び、笑顔の絶えない交流になりました。バンコク都



◀うまくだるまが落とせて大喜び

の子どもたちはリラックスして、すっかり普段の顔に戻っていました。

こども親善大使を務めたOGO会の中には、親となり、子どもと一緒に来た参加者もいました。将来、OGO会の子供たちが成長し、未来の八千代こども親善大使としてバンコク都を訪問する日が来るかもしれません。こうして、世代を超えた交流へと広がっていきましょう。

## 4年ぶりの訪問で、より強まる絆

35年という長い交流の歴史の中で、両国は強い絆を育んできました。

今回は4年ぶりの訪問であり、関わった全員が、これまで以上に交流できたことの喜びを噛みしめていました。

来年1月には、4年ぶりに八千代こども親善大使12人がバンコク都を訪問する予定です。今回も一生忘れられない、大切な人たちとの出会いが待っていることでしょう。これまでの絆が、より一層強く、いつまでも引き継がれていきます。

お問い合わせは  
シティプロモーション課  
☎421-6703へ

広告

広告